

山陰仏社会報



第13号

山陰教区仏教壮年会連盟会報・第13号

【編集・発行】山陰教区仏教壮年会連盟事務局  
〒690-0002 松江市大正町443-1(本願寺山陰教区内)  
電話(0852)21-4747 FAX(0852)27-8351



## 平成二十七年総会に参加して

神門組 正善寺仏壮 本田和政

平成二十七年総会・研修会は五月一〇日(日)一〇時三〇分から山陰教堂で開催されました。当日は会員八十六名の参加がありました。

開会式に続いて午前中は総会が開催されました。

総会では、平成二六年度事業報告、決算報告がなされ、承認をされました。続いて、平成二十七年の活動方針とこれに伴う事業計画(案)、収支予算(案)の説明がありました。

本年度のスローガンは「朋友の輪を拡げ いのちがやかく世界を」。

活動方針は、「伝灯奉告法要」についてのご消息」の意を体し、「仏教壮年会連盟 綱領」の精神に則り(中略)仏教壮年の活動が促進されるよう取り組む。

この活動方針のもとに、重点項目、事業計画を定め、必要な予算が計上されています。これらの提案に対し慎重に審議がなされ承認されました。

午後からは研修会が開催され、大阪教区交野組浄行寺住職の義本弘導師(仏教壮年会連盟講師)より「これからの仏壮活動について」と題し講話を頂きました。

講話の要点は、  
一・現状分析

(団塊の世代)  
経済最優先の社会構造の中で、都会への集団就職、核家族化が進んだ。  
(伝承と選択)  
代々継承されてきた既存の宗教。

自ら選択する新興宗教。  
(終活)  
生前のうちに葬儀や墓のこと、自身の財産の相続を円滑に進めるための計画。

二・お寺へ参ろう  
三・仏教壮年会の活動  
本堂の留守役になる。法要の時の声掛けをする。家庭で子や孫に伝承する(揭示伝道)。など...

出来ることから実践していきたいと思えます。

## フロック研修会報告

### 鳥取フロック仏壮研修会に参加して

鳥取因幡組 隆建寺仏壮 長谷川 誠



平成二十七年九月六日鳥取因幡組隆建寺に於いて、御講師、佐々木智浩先生をお迎えし、鳥取フロック仏壮研修会が開催されました。午前に「何を聞きにお寺へ参るのか」と言うテーマで御講話があり、昼食休憩後、各分散会に分かれ話し合いました。私の班では、『こういう機会にお寺さんへ行かれるのか』と言う事で、話し合いました。その中で、一番多かったのが、家族、身内の人を亡くした後

に、葬式、法事などお寺さんとの関わりが出来、それがご縁で、御法座には必ず参る様になった事。また、仏壮活動に参加する事で、歎異抄、正信偈を勉強したり、奉仕作業、レクリエーション等、各研修会に参加させていただく様になった事。等の意見ができました。また御講師様は、普段から自分の周りの人への声かけが、大事なのではないかと。また、お寺の活用として、催し事、ステージ等に、利用するのいいのではないのでしょうか、とも。また、最近では、セレモニーホールでのお葬式が多くなってきましたが、お寺は、住職、門徒のすべての人々のものだから、お寺でお葬式をする事もいいのではないのでしょうか。とのお話でした。また、宗教とは、わからない事をわかる様にする事が宗教ですよ。とも話されていました。この度の鳥取フロック研修会に参加させていただいて、いろいろと考えさせられた事でありました。

## 出雲フロック研修会報告

出雲組 宗玄寺仏壮 山根 猛

十月十八日に斐川町の今在家農業公園農業ホールにおいて出雲フロックの研修会が開催されました。好天でもあり皆さん多忙の中、出雲フロックの五組より六十名が参加して実施されました。

開会式の挨拶中で中尾了信教務所長より伝灯奉告法要、千鳥ヶ淵での戦没者追悼法要等最近の本願寺における行事、状況などのお話がなされ、続いての研修では本願寺派布教使(出雲組寛専寺住職)の佐々木俊教師より出雲組における実践運動の取り組みをもとに「実践運動と仏壮活動」のテーマで基調講演と問題提起をいただきました。

この基調講演の後、山陰教区ビハーク会長(出雲組宗玄寺住職)の藤森師を座長として質疑応答の形で全体会が行われ、浄土宗と浄土真宗、親鸞聖人の生涯、伝灯奉告法要の予算等、多岐にわたっての質問がなされ、講師先生や教務所長からわかりやすく解説をしていただき、それぞれに納得できたのではないかと思います。



仏教壮年会連盟の綱領は「われわれ仏教壮年は、自らの生き方を親鸞聖人のみ教えに聞き、ともにお念仏申す朋友の輪を広げ、心豊かに生きる社会の実現を目指します」。

と、大変に素晴らしく、しかし実行することは大変難しい事です。が、この綱領を基に行動すれば、即実践運動に大きく寄与することになると思いますので、この研修会に学ばれて今後仏社会の活動にますますに協力していただければ幸いです。

# 石見ブロック研修会報告

大田東組 正藏坊仏社 青木 正三

平成二十七年七月十二日(日)、滋賀県長浜市の清休寺ご住職の泉恵機師をお招きして、大田市あすてらすで研修会が開催されました。

講題は「親鸞聖人の教えを受け継ぐということ―高木顕明師の場合」でした。泉先生はネパールに四十三回行かれています。何故ネパールに行くのか、釈迦が生まれたネパールでは仏教の名で生きている人がいる、そのような人びとがどのように生きているか知ることがとても大事だ、仏教を聖典から学ぶこともあるが、生きて学ぶ、生きて知ることが大事だと一貫した姿勢です。そこからダライラマ、マザーテレサに会う機会が生まれ、真宗の教えを学んで生き方を変えた人として高木顕明師に学ばれたのです。

高木顕明は愛知県に生まれ、大谷派の僧侶となり、和歌山県新宮の浄泉寺の住職となりました。浄泉寺は被差別部落にある寺でした。蔑まれた被差別の人びとに熱心に親鸞の教えを説きました。殊

に日露戦争非戦を訴え、遊郭設置反対に命をかけて立ち上がりました。しかし、一九一〇年、でっち上げられた大逆事件で逮捕され、何の罪のない顕明でしたが秋田刑務所で自死しました。顕明に対して、大谷派(東本願寺)は即座に僧籍はく奪、追放の処分をしたのです。一九九五年にやっと顕明の名誉回復、復権を認めましたが、三十年かかった顕明の復権は泉先生を中心とする運動によるものでした。高木顕明こそ現代の親鸞聖人というべき人であると法話は締めくくられました。自らも共に大地に生き、民衆に分け隔てなく教えを説かれた親鸞聖人の教えを受け継ぐということは、高木顕明に学ぶということであり、大変意義深い研修会でした。



# 寺院仏壮結成に向けた研修会に参加して

顧問 大田西組 龍藏寺仏社 泉 原 省 三

二十七年十二月十一日徳島県美馬市において標記研修会が開催されました。第四連区のなかで結成率が低い四州教区が会場となるのは二回目であり、吉野川近くで赤門と呼ばれ朱塗りの山門が素晴らしい会所、安楽寺には約五十名が集い開会式に続き備後教区の理事長が趣旨説明を行った後、愛媛松山組の代表と山口教区前理事長から活動事例の報告がありました。

そのあと仏壮連盟活動推進講師の高橋哲了先生から班別討議に当たつての問題提起がなされました。

仏壮活動とは何か、結成に向けての問題点と対策等を話し合う為に、例えば仏壮はどんなメリットがあるのか?どんなメリットを期待しているのか。僧侶が結成に対して消極的である、どのような対応をすれば積極的に転換できるのか等具体的に議論するよう指導が有りました。事務方を含めて六班に分かれて活発な意見交換が行われました。熱のこもった隣の班の声が耳に入り班協議が聞こえない程でした。

全体会協議の後、住職さんから今まで仏壮が出来そうで出来なかつたが今年二単位は必ず出来る確信が有ります。皆さんの後押しのお蔭ですとお礼と決意を述べられ、将来の総代候補として仏壮は最もよい組織だと補足もされました。有意義な会の後、丸亀に会場を移し懇親を深めた一日でした。翌日は塩屋別院で第四連区連絡協議会を開催し今回の研修会の総括を踏まえ来年度以降の計画を協議して解散しました。 合掌



# 平成二十七年 度 仏教 壮 年 会 連 盟 中 央 研 修 会 に 参 加 して

鳥取伯耆組 香宝寺仏壮 西山賢一



開催要項の受講対象に①各教区二名、②本研修会は教区幹部を含む仏教壮年会活動推進員の育成を目的とした研修会です。③太字で六十歳以下(うち一名は五十歳以下)が望ましい。と記入されました。

参加者は北海道教区から鹿児島教区までの五十四名で、六十歳以下の人は私見ですが十名以下に見えました。勿論私は六十歳以上です。参加して、全国の活動状況や悩みなどを知り仲間も作り、自ら会員として自覚を深め、自己改革と

今後の活動も頑張ろうと強い意欲も湧いてきました。

同時にひとつと若くて行動力がある六十歳以下の会員が参加するべきだとも強く感じました。現在は年齢制限も撤廃され若手の新規会員が増加しない中、平均年齢も年々高くなり、まるで仏教老人会と言っても過言ではないかと思うくらいです。

思い切って六十五歳までとし、現役でバリバリの会員が中心となつて仏教の普及と推進に励んで行くべきだと思いました。六十五歳以上の方にも受け皿は必要であり、仮称「仏教いきいき隊」などの組織を作り、知恵と経験を生かした「生き生き推進活動」を行ってはどうかなどと考えてしまいました。

最後に、この研修会に初めて女性会員が参加され、「仏教婦人会」からも会員を募り、女性会員が夫を会員へと導き夫婦でお寺により強く関わるよう「提案されました。言い換えれば現在の我々男性会員も妻を勧誘すればより活発化する」ということになりましたが・・・以上報告します。

## 飯南組西蔵寺明晴会の活動について

明晴会 会長 半田眞道

西蔵寺明晴会は、昭和五十二年に結成され、平成二十二年に女性部を新たに設け、現在、会員数百七十九名で、会則の目的に沿い活動をしています。一年間の主な活動を紹介します。

- ① 総会並びに仏具みがき・本堂・境内の清掃(六月)
- ② 本堂・境内の清掃(八月)
- ③ 本堂・境内の清掃並びに懇親会(十月)
- ④ 除夜会の開催

⑤ 明晴杯ゴルフコンペの開催(二月) そのほか、二年に一度の、念仏奉仕団の実施及び飯南組での取組の「キッズサンガ」への協力、各種研修会への参加等取り組んでいます。特に、平成二十二年に、親鸞聖人七百五十回大遠忌法要の飯石南組(現飯南組) お待ち受け 法要の会場を当寺院がお受けしたご縁で、以来、年三回の境内等の清掃活動に取り組んでおります。



境内清掃後の記念写真

## 編集後記

「壮創」第十三号発行にあたり、ご執筆をいただきました方々に御礼申し上げます。

平成二十六年六月六日前門さまより法統をご継承され第二十五代専如新門さまが就任されました。それに伴い、今年十月から来年五月まで十期八十日間、伝灯奉告法要のおつとめがおこなわれます。新門さまのもと新体制のスタートの年ではないかと思えます。これを機縁に「宗門総合振興計画」が設定され、1、仏教の精神に基づく社会の貢献 2、自他共に心豊かに生きる生活の実践 3、宗門の基礎づくり この3つの基本方針にそつて、我々仏壮もこの方針に賛同し、出

来ることから活動いたしましょう。組織の拡大、今、休会をされる会もあると聞きます、組織の充実、高齢化が進み退会される方もおられます。また次世代の育成がままならない状況があるように思います。こうした状況を十分把握し、宗門が推進する「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)を強力に推し進め、仏教壮年会連盟綱領で謳われている「自らの生き方を親鸞上人のみ教えに聞き、ともに一念仏申す朋友の輪を拡げ、心豊かに生きる社会の実現を目指します」これを心にとめこれからの仏壮活動に生かしましょう。

一人でも多くの方がお寺との縁が深まることを期待いたします。合掌 (鳥取伯耆組 本蔵寺仏壮 島村節夫)